

衆議院議員(熊本3区)・6期

坂本哲志からの ごあいさつ

- 内閣府特命担当大臣
(地方創生・少子化対策)
- 一億総活躍担当大臣
- まち・ひと・しごと創生担当大臣

熊本地震から5年が経過しました。そして今、新型コロナウイルスの感染拡大で世界中が苦しんでいます。日常の生活を阻む様々なことが私たちの前に立ちはだかります。それを一



つ一つ乗り越えて行くのが、政治です。乗り越えられない試練はない、皆さんと一緒になって解決に向かわなくてはなりません。

熊本地震からの復旧・復興はお陰様で一定のメドがつかえました。次はコロナの終息、そしてコロナ禍からの経済回復、社会の再生、人の繋がりの復活です。

地方創生、少子化対策、そして孤独・孤立対策等を担当している内閣府特命担当大臣としてこれらに全力で取り組みます。手に手を取り共に進みましょう。

坂本哲志

昭和25年11月6日生
70歳(熊本県菊池郡大津町出身)
大津町立陣内小学校 現大津南小学校
大津町立大津中学校
熊本商大付属高校(現熊本学園大付属高校)
中央大学法学部政治学科卒業
熊本日日新聞社入社。政経部主筆支局長
都市圏部等で15年間記者
熊本県議会議員選挙で初当選
以後4期連続当選
平成3年4月
第43回衆議院議員総選挙に初当選(1期)
以後4期連続当選
平成15年11月
衆議院議員熊本第三選挙区補欠選挙当選(2期)
平成19年7月
自由民主党入党
平成19年12月
熊本県第三選挙区支部長就任
平成20年8月
総務大臣政務官に就任
平成21年8月
第45回衆議院議員総選挙当選(3期)
平成22年12月
第46回衆議院議員総選挙当選(4期)
総務副大臣兼内閣府副大臣就任
平成24年12月
衆議院農林水産委員長就任
平成25年10月
自民党副幹事長、畜産・酪農対策小委員長
平成26年9月
第47回衆議院議員総選挙当選(5期)
平成26年12月
衆議院総務委員会筆頭理事
平成28年1月
災害対策特委員
第48回衆議院議員総選挙当選(6期)
令和元年10月
衆議院予算委員会筆頭理事
令和2年9月
内閣府特命担当大臣
(地方創生・少子化対策)
一億総活躍担当大臣、
まち・ひと・しごと創生担当大臣
令和3年2月
孤独・孤立対策担当大臣

大臣として 大担当した法案

国家戦略特別区域法の一部を改正する法律案
法人による農地取得特例の2年延長、工場の新増設の際の緑地等の設置基準特例の創設等の規制改革を行うもの。

地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律
いわゆる「第11次地方分権一括法」。郵便局でも転出届や印鑑登録の廃止申請の

受付等の手続きを出来るようにすることが柱であり、各種手続きの受付場所を増やし、住民の利便性を向上させるもの。

子ども子育て支援法・児童手当法
育児休業の取得促進など子育て支援に積極的に取り組む事業主への助成金の創設。

地域の子育て支援の連携の推進、待機児

童の解消に必要な財源を確保するため児童手当の重点化をするもの。

障害者差別解消法
従来は行政のみに義務付けられていた障害がある方の移動や意思疎通を無理のない範囲で支援助する「合理的配慮」を企業や店舗などの民間事業者にも義務付けるもの。



■まち・ひと・しごと創生担当大臣
第15回まち・ひと・しごと創生
担当大臣と地方六団体の意見交換会
現在策定を進めている「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」について、地方六団体の各代表と幅広く意見交換を行いました。

基本方針2021では、新型コロナウイルスの感染拡大で地方への人の流れが強くなりつつあるなか、「ヒューマン・デジタル」「グリーン」の3つの視点を重視しています。「デジタル」はICTの推進、「グリーン」は脱炭素社会の実現、そして「ヒューマン」は中央から地方への派遣、移住、副業・兼業による人材と知の移転です。

国と地方がしっかりと連携しながら、新しい時代にふさわしい地方創生政策をスタートさせます。

■孤独・孤立対策担当大臣
我が国初の「孤独・孤立対策
担当大臣」を拝命。

2月12日に菅総理から、我が国初となる「孤独・孤立対策担当大臣」の指しを受け、早速同月19日に対策担当室

を設置しました。

骨太の方針(経済財政運営と改革の基本方針)で、24時間体制の相談対応、人材育成、態把握など施策の基本的な方向性を盛り込みました。

今後、現場を熟知したNPOの方々の意見を伺い、年内に重点計画を取りまとめていきます。

■地方創生担当大臣
国と地方の協議の場

「国と地方の協議の場」は、地方自治に影響を及ぼす国の政策について関係大臣と、知事会、市長会、町村会や地方議会議長会のいわゆる地方六団体の代表者で現在の課題を話し合う場です。

今の最大の課題は、新型コロナウイルス感染拡大防止等のために、地方公共団体が、地域の実情に応じて、必要な事業をきめ細やかに実施できるよう、国がどう財源を支援していくかです。

これまでに私の担当である「地方創生臨時交付金」を令和2年度において、約5兆円地方へ配分しました。



Osamu Maekawa

前川おさむ後援会

事務所/〒861-1307 菊池市片角325-1
TEL0968-24-2171 FAX0968-24-2855
http://om-k.com/

後援会内部資料 討議資料

ご挨拶

錦秋の候、皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。一昨年末に中国(武漢)にて発生した新型コロナウイルスは瞬く間に世界中に広がり、私達が過去に経験のないパンデミックになってしまいました。これまで当たり前だった日常が、大きく変化し、社会活動や経済活動に深刻な影響がでております。

私の政治活動においても、大規模な集会や酒席を避ける必要から例年開催しておりました「望年の集い」や「県政との対話」等も、開くことができず、皆様との対話が難しい状況にあります。そのような中でも、私の政治活動についてご報告をさせていただきたく、この度「新風」を発行させていただきました。

今回の「新風」のテーマは、政治が担うべき最大の課題である「国民の命と暮らしを守る」ということを今目的な話題の中で御紹介したいと思います。

昨年7月、球磨川流域において豪雨災害が発生し、多くの尊い命が失われました。コロナの影響で県外からのボランティアが受け入れられないなか、私は自民党の友好団体の皆様にお願いをし、ボランティア活動を行いました。その時、すべてが泥水に流されたその惨状を見ながら、過去に川辺川問題特別委員長として、球磨川流域の治水問題に向き合った自分の責任を感じておりました。その時の議論においても、川辺川ダムをつくらなければ、必ず災害が発生すると解っていたからです。地元的首長(人吉市長、相良村長)がダム反対を表明し地元の賛同が得られな

い中、蒲島知事はダムの白紙撤回を選択し、当時の民主党政権がダム計画を廃止してしまいました。ダムを争点とした地域の対立は解消しましたが、結果としては流域住民の「命と暮らしを守る」とは出来ませんでした。7月豪雨後の県議会全員協議会で、私は「10cmでも20cmでも川の水位を下げることで、一人でも二人でも命を救うことができるならダムを作るべきだ」と意見を述べ、人の命にかかる政治の重さを訴えました。蒲島知事は被災住民との対話の中で「命と環境の両立」という新しい考えを示され、「緑の流域治水」の一環として、新たな流水型ダムを提案され、現在その計画実現の動きが加速しております。

新型コロナウイルスについてですが、今年5月に菅前総理と官邸で面談しました。その時総理は「国民に行動制限を御願いしても解除すれば必ず再び感染は広がってくる、コロナ対策の決め手はワクチン接種だ。1日も早くワクチンを普及させたい」と熱く語られました。総裁選とコロナ対策の両立は不可能で、コロナ対策に専念する為に総裁選に出馬しない選択をされた菅前総理ですが、総裁選の状況を見てきてその両立が不可能であることが理解できましたし「国民の命と暮らしを守る」政治家の覚悟に敬意を表したいと思っております。

おかげで現在の熊本県のワクチン接種率は、全国有数となっております。11月中旬には、望まれる全員へのワクチン接種を完了できる予定です。

欧米諸国のようにロックダウン(都市封鎖)を行うことなく、現状が維持できていることは国民の皆様のお協力と、

全ての医療従事者の御尽力のお陰であり、心から感謝申し上げます。まだまだ安心できないコロナウイルスと向き合う日々が続きますが、必ずコロナを克服する覚悟で頑張りましょう。

さて、自民党の党則により、3年に一度の総裁選挙が行われました。4人の候補者が立候補し、国家観や経済政策、コロナ対策等の論戦が交わされました。自民党ほど民主的に代表を選ぶ政党は他になく、これが自由と民主主義を標榜する自民党の真骨頂であります。

岸田文雄代議士が新総理総裁となり、新しい内閣が組閣され、熊本4区選出の金子恭之代議士が地方自治に最も密接な関係にある総務大臣に就任されました。我が県としても大変心強く、喜ばしく思っております。

つきは、衆議院総選挙であります。私は自民党熊本県連の会長として、熊本4つの選挙区において全ての自民党現職の再選を至上命題として戦います。コロナ禍の難しい選挙であります。3区の前川おさむ代議士に皆様のご声援をよろしく御願いたします。

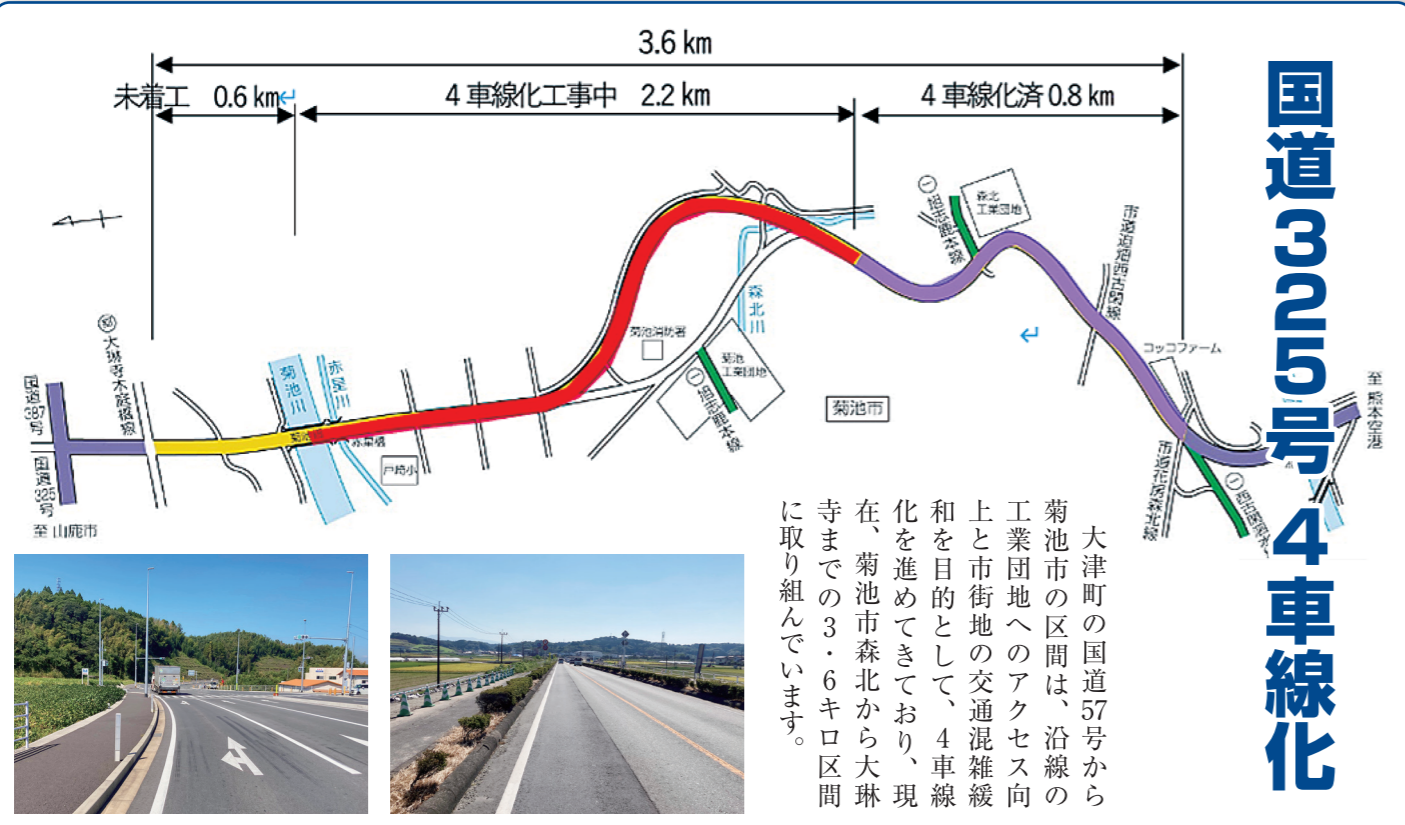
令和3年10月5日
自民党熊本県連会長
熊本県議会議員
前川 収



あなたと共に郷土づくり

前川おさむ県政だより

令和3年10月



大津町の国道57号から菊池市の区間は、沿線の工業団地へのアクセス向上と市街地の交通混雑緩和を目的として、4車線化を進めてきており、現在、菊池市森北から大琳寺までの3・6キロ区間に取り組んでいます。



中九州横断道路

この道路は、熊本市と大分市を結ぶ地域高規格道路で、菊池市近郊から九州縦貫自動車と直接アクセスできる自動車専用道路となります。

これまで「熊本市・大津町」間の事業化を求めてきましたが、2019年（令和元年）度に熊本市の九州縦貫自

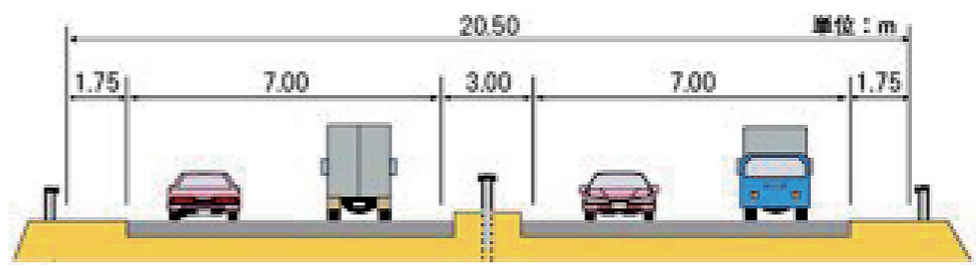
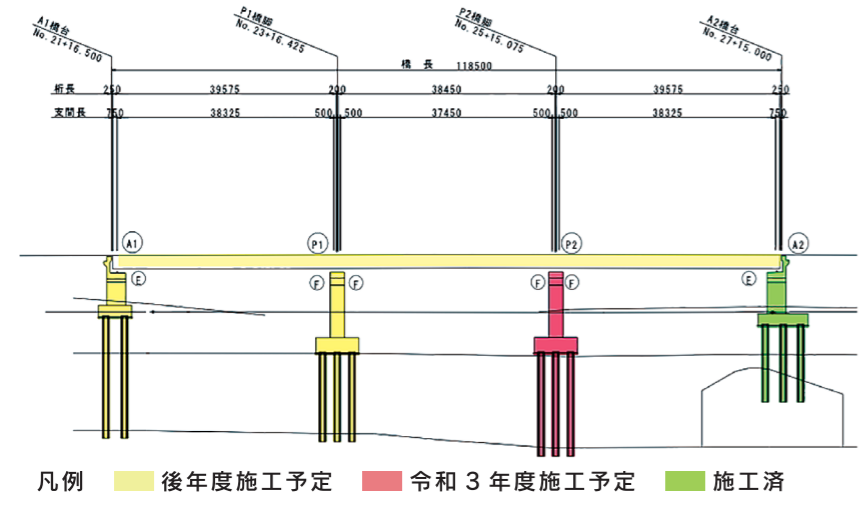


図 出典：国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所 HP

動車道から大津町の国道325号までの約14キロが都市計画決定され、そのうち九州縦貫自動車道から合志市の県道住吉熊本線までの約9キロが2020年（令和2年）度に事業化されました。今年度は調査や測量設計が行われています。

引き続き、未事業化区間の早期事業化と事業着手済区間の早期着工と早期完成に向けて取り組めます。

県道辛川鹿本線 合志川橋架替

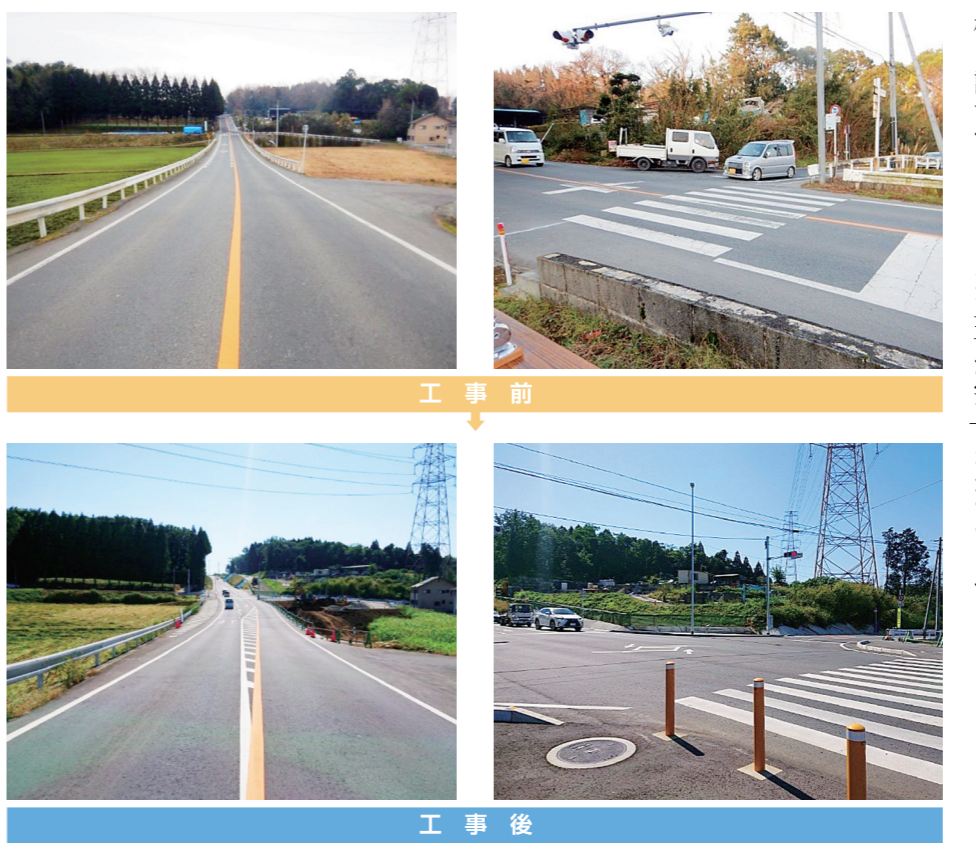


1942年（昭和17年）に架設された合志川橋は、2012年（平成24年）7月の熊本広域大水害を契機として、現在、架け替えを推進しています。新橋は橋脚が少なく、洪水に対しての安全性も高まります。

地域の皆様のご理解により、2018年（平成30年）11月から全面通行止めにより工事を進めています。最終段階である橋桁の架設や交差点部の改良工事等を残すのみとなりました。

2022年（来々）度には工事が完成する予定です。

県道住吉熊本線（菊池市泗水町永地内）



見通しが悪く、桜山区の皆様より信号機設置を望む声があった県道住吉熊本線（泗水町永地内）の交差点について、平成28年度から交差点を含む前後の改良事業に着手されました。

4月26日に右折レーンと信号機を設置するなどした工事が完了し、供用開始がされました。

地域から「安全な交差点になった」と喜びの声がありました。工事期間中のご理解とご協力に感謝申し上げます。

なお、現在、工事期間中に使用した仮設道路の撤去工事が行われています。